

リレーメッセージ第1回

東京双松会の皆さん、こんにちは。27期、理数科6期卒業の毛利信二です。今年から東京双松会副会長を仰せつかりました、宜しくお願ひ申し上げます。

昨年の総会でお目にかかった小山校長（当時）からの御要請により北高生の前で話をする事となり、今年3月20日ほぼ卒業以来となる母校訪問が実現しました。今や東高、南高と3校併せても一学年20クラスにしかないとの校長のお話に驚いたものの、「北高生に期待する」と題した二時間近い私の話を、体育館の固い床に座った姿勢で生徒達は最後まで熱心に聴いてくれました。



昨年国土交通事務次官を退任した私には、37年間の国家公務員生活で経験したこと、感じたことをありのままに画面と言葉にする以外術はない訳ですが、国会との立ち位置、法律策定作業などやや特殊な霞ヶ関の世界をどう伝えるか、随分思い悩んで準備をしました。例えば、「国民の声を聴く」と政治家がよく使いますが、国家公務員もそれは大事です、でも世論って何だろう？乃木坂46というグループの「インフルエンサー」というヒット曲の中に「気配以上会話未満」というフレーズが出てくる、「・・・恋はいつも余所余所しい」と続くのだが、世論とは「気配以上会話未満」のものと言えるかも知れない、それくらい分かりにくく、掴みにくいもの、だから、いつも気をつけて本当にそれが国民の声なのか尋ねる姿勢が大事です、とか、平成最悪の水災害となった昨年7月の西日本豪雨災害にどう対応したのか、当時の私の手帳を画面に映し出しながら官邸との緊張したやりとりを語ったり、と出来るだけ身近なところからお話ししたことも奏功したのでしょうか、講演前の心配を吹き飛ばすような嬉しい反応を、後で送っていただいた生徒達の感想文で知ることとなりました。

その一部は北高HPでも見るができます。

(<https://www.matsuekita.ed.jp/files/20190327131842.pdf>)

今回の講演は、私の人生を振り返る良い機会にもなりましたし、講演を終えて改めてしみじみ思ったのは、これからも「北高生に期待する」ということでした。

(2019年7月23日)